

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	116人	算数	116人	理科	118人
第5学年	国語	107人	算数	107人	理科	108人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

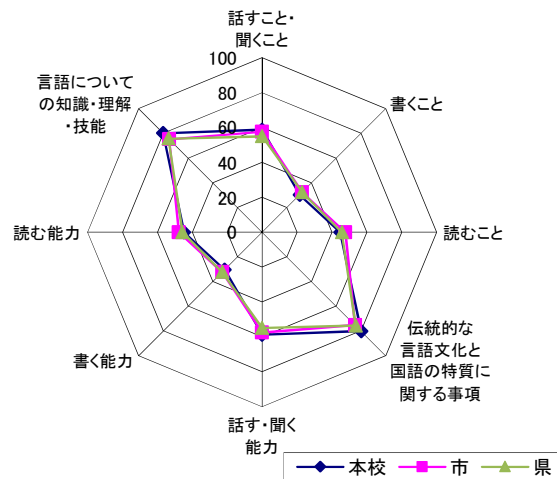
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	58.7	57.5	54.9
	書くこと	30.4	32.3	32.3
	読むこと	44.8	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.2	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	58.7	57.5	54.9
	書く能力	30.4	32.3	32.3
	読む能力	44.8	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	80.2	75.3	75.8



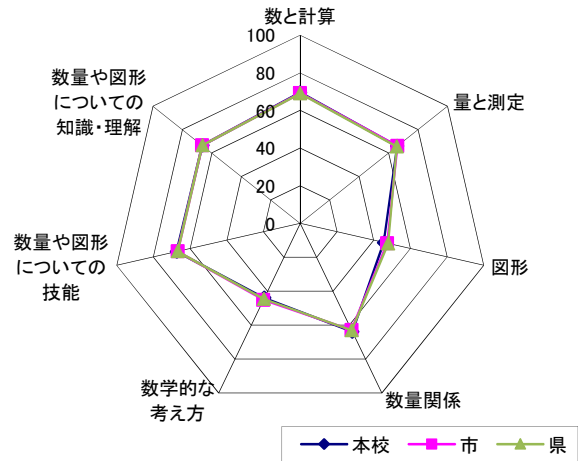
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行すること」「理由を挙げながら筋道を立てて話すこと」に関する問題の正答率が県の平均より高い。 ●「話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べること」に関する問題の正答率が県の平均より低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国語だけでなく他の教科においても、グループ等での話し合いの際、全員が自分の意見を理由を明らかにして発表するように支援する。また学級活動の話し合い活動の際、できるだけ多くの児童に自分の意見を述べる機会を設定する。
書くこと	●「メモや友達の意見を基に、報告レポートを書くこと」や「文章の構成を意識し、内容を工夫して報告レポートを書くこと」に関する問題の正答率が低い。	・国語だけでなく、社会科や総合的な学習の時間等で調べたことを新聞等にまとめる際、見出しの付け方や図・表の使い方など確認し、表現を工夫させるようにする。
読むこと	○「段落相互の関係を捉えて読むこと」に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むこと」に関する問題の正答率が県の平均より低い。	・物語文の読み取りの際には、根拠をもって心情を想像できるよう、登場人物の気持ちが表れている表現を捉えて心情曲線に表すなどの活動を取り入れ、指導方法を工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字を正しく読んだり書いたりすること」に関する問題の正答率が県の平均より高い。 ●「日常使われている簡単な単語をローマ字で書くこと」に関する問題の正答率が県の平均より低い。	・パソコンの「キーボードレッスン」のソフトを使って、繰り返しローマ字入力の練習をし、ローマ字のつづりを覚えるようにする。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.6	69.2	69.1
	量と測定	65.9	66.1	65.6
	図形	45.6	47.4	48.0
	数量関係	63.9	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	43.9	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	67.3	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	66.5	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

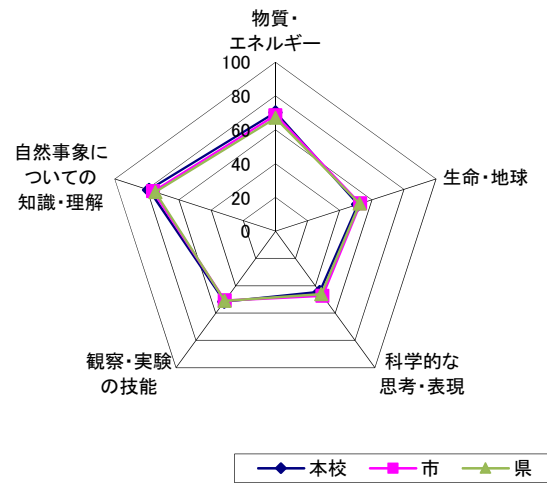
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○整数や小数の四則計算に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●合計が3000円になるように、乗り物の組み合わせを考える問題の正答率が県の平均より低い。	・実際の買い物や食事などの場面を想定し、決められた金額の中で買うことができる商品の組み合わせを考える問題に取り組ませる。 ・解き方の見通しがもてるよう条件を整理し、見積もりをもたせる。
量と測定	○物のおよその重さを推測する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●はかりの針が指している目盛りを正確に読む問題の正答率が県の平均より低い。	・いろいろな種類のはかりについて、1目盛りが何グラムを表しているかについて調べ、実際に重さを量る活動を通して習熟を図る。
図形	●箱に入ったボールの直径や半径を求める問題や正三角形を正しく作図する問題の正答率が県の平均より低い。	・球の直径や半径を実際に求める活動を通して、理解を深められるようにする。 ・コンパスを使って正三角形を作図させ、正三角形の特徴とコンパスを使う理由を確認し、技能を身に付ける。
数量関係	○棒グラフが表している大きさを正しく読み取ったり、それからわかる内容を選ぶ問題の正答率は、県の平均より高い。 ●未知の数量を口として数量関係を線分図に表わす問題の正答率が県の平均より低い。	・口を使った式の問題では、求める数や立式に使う数字の関係を言葉から捉えられるように整理し、線分図に示してから答えを求めるようにする。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.3	68.6	66.9
	生命・地球	51.4	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	44.6	47.4	46.2
	観察・実験の技能	51.6	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	78.7	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○輪ゴムを伸ばす長さと車の走る距離の関係に関する問題の正答率が県の平均より高い。 ○磁石を使ったおもちゃを回り続けさせる方法に関する問題の正答率が県の平均より高い。 ○ものづくりで利用している磁石の性質に関する問題の正答率が県の平均より高い。 ●豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する問題の正答率が県の平均より低い。 ●回路にはさみをつないだ時、明かりがつかなかった理由を説明する問題の正答率が低い。	・いろいろな回路を自由に考えさせ、豆電球の明かりがつくかどうかを予想させてから実験するようにする。 ・電気を通すものと通さないものをもう一度確認し、電気を通す部分と通さない部分があるものについても確認するようにする。
生命・地球	○虫眼鏡の正しい使い方に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●方位磁針の名称と正しい使い方に関する問題の正答率が県の平均より低い。 ●昆虫を見つけた場所と見つけた数のグラフから正しく考察することに関する問題の正答率が県の平均より低い。	・理科だけでなく社会科等で方位磁針を使用する際、再度使い方を確認するようにする。 ・実験をして得られた結果からわかることを考える際、時間を十分確保するとともに考える視点をいくつか示し、多様な意見を発表できるように支援する。

宇都宮市立石井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

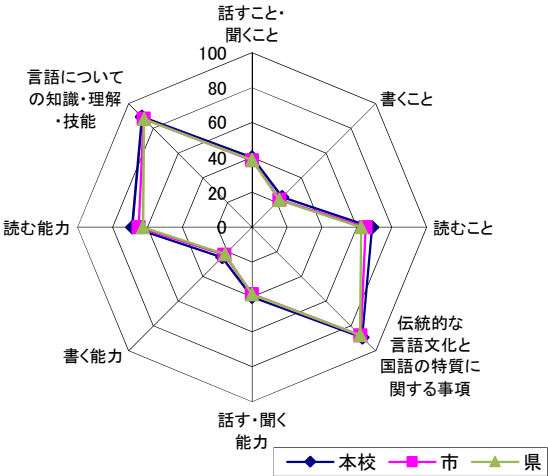
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していておもしろい、楽しい、不思議だと思うことがある」の肯定割合が県の平均と比べて高い。
○「疑問や不思議に思ったことは、分かるまで調べたい」の肯定割合も県の平均と比べて高い。引き続き自主学習の充実を図る取り組みを支援していきたい。
○「自分から進んで学習に取り組んでいる」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」の肯定割合が県の平均より高い。今後も学習意欲を高めるような働きかけを工夫していきたい。
○「学習で身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つ」「将来の夢や目標をもっている」の肯定割合が県の平均より高い。今後も自己肯定感を高め、自分の良さを伸ばすことの大切さを伝えていきたい。
●「友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定割合が県の平均より低い。体を相手にしっかりと向けて、真剣な態度で最後まで話を聞くことを、授業中だけではなく、日常の様々な場面で実践できるよう声掛けをしていきたい。
●「学校のきまりを守っている」の肯定割合が県の平均より低い。なぜそのきまりが必要なのかを考えさせ、きまりを守ることの大切さを理解させていきたい。
●「時間を上手に使うことをころがけている」の肯定割合が県の平均より低い。生活の中で時間を上手に使うことのよさを実感させるとともに、テストの時もできそうな問題から解くなど、時間の配分や有効な使い方を常に考えさせていきたい。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	39.9	38.3	38.5
	書くこと	24.3	22.3	21.9
	読むこと	68.7	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	89.3	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	39.9	38.3	38.5
	書く能力	24.3	22.3	21.9
	読む能力	68.7	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	89.3	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

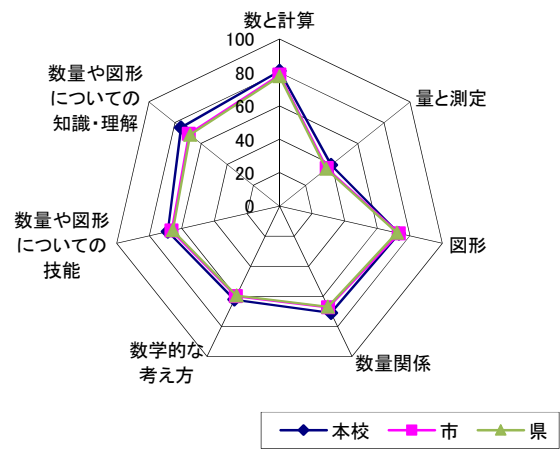
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、39.3%であり、県平均よりも上回っている。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解する」や「考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す」についての問題の正答率は、県平均を上回っているものの正答率は低い。	・話し合いの場では、自由に意見を交換するだけでなく、テーマによっては司会者を位置づけ、建設的な話し合いが展開できるように配慮する。 ・一部の児童のみで話し合いが進まないように、自分の考えを明確にもつことができるような時間を確保する。 ・学級活動における話し合いでも、根拠を基に自分の考えを伝える活動を取り入れ、自己表現する場の経験を積み重ねていく。
書くこと	○領域の平均正答率は、24.3%であり、県平均よりも上回っている。 ●「メモの内容に新しい情報を加えリーフレットに入れる」や「メモや友達の意見を基にリーフレットのまとめを書く」などの平均正答率は、県平均を上回っているものの正答率は低い。	・作文やパンフレットなど、様々な形態の文章を書く過程において、文章や図、イラストなどを活用する目的や意図をより意識させながら取り組ませていく。 ・授業では、文章を書くことに苦手意識がある児童の手立てとして、推敲の仕方を具体的に提示したり、ノートを見合うことで表現する際のポイントを共有し合ったりするなど、よりよい文章にふれることで学習の見通しがもてるように配慮する。
読むこと	○領域の平均正答率は、68.7%であり、県平均よりも上回っている。 ○「中心となる語や文に注目して小見出しを付ける」や「叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む」は、9割を超える正答率であり、今までの主語や述語、修飾語、強調文、問いかけ文など、丁寧な読み取りが理解の定着へとつながっている。 ●「書くこととすることの中心を明確にして書く」を読み取る正答率が低く、県の平均を下回っている。	・朝の読書の時間を活用し、ブックトークや読み聞かせを行ったり、教科書に出てくる本を「チャレンジ読書」として読ませることで、たくさんの優れた文章に触れさせるようにする。 ・説明文や物語文の構成や文章構造を視覚的にとらえやすくするために、文章を拡大した資料を利用するなど掲示物を工夫する。 ・物語文や説明文を学習する際に、要旨をとらえさせるだけでなく、主語と述語の関連にもふれながら必要に応じて教科書に線を引くなど、文の構造をより理解できるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きや、漢字の組み立て、ことわざの使い方についての正答率は、県の平均を上回っている。 ○「漢字の読み書き」や「言葉の学習」についての平均正答率は9割前後であり、県の平均を上回っているため、今までの取組が理解定着につながっている。 ●漢字辞典の使い方について平均正答率は県の平均を上回っているものの、83%であることから理解の定着を図るための具体的手立てが必要である。	・国語辞典や漢字辞典を使った授業を展開したり、家庭学習に広げたりして、辞典の正しい使い方の理解へとつなげていく。 ・漢字の読み書きについての確認テストを定期的実施することで児童の理解度を把握するとともに、結果に応じて家庭学習や自主学習の課題として示すなど、理解力の向上や学習への自信へとつなげていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.9	78.6	77.7
	量と測定	39.5	36.3	35.7
	図形	73.4	73.3	72.1
	数量関係	71.0	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	62.1	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	68.6	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	75.5	69.4	68.5



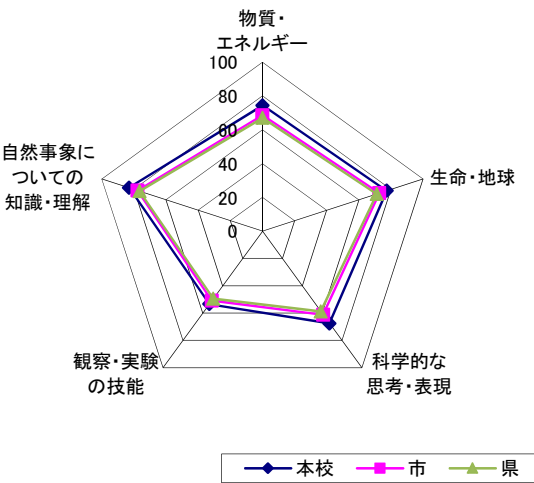
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○県の正答率を3.2ポイント上回った。 ○「わり算」では全体的に、県や市の正答率に比べ5ポイント以上上回っている。 ●「小数(小数第一位)－小数(小数第二位)」の計算の正答率がやや低い。 ●「小数÷2位数」の正答率が県や市に比べ、5ポイント以上低い。 ●倍で表された数量関係の場面についての問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の四則演算の方法について、朝の学習や家庭学習などで復習させるなどする。 ・計算ドリルを活用し、正確に計算ができるよう繰り返し練習させる。 ・文章問題の事柄や関係を、図に表したり線分図や数直線に表したりするなどの算数的活動を積極的に取り入れる。
量と測定	○県の正答率を3.8ポイント上回った。 ●「図をもとに180度より大きい角度の求め方を説明する。」設問の正答率が低い。	・180度より大きい角度の求め方や作図について、朝の学習や家庭学習などで復習させる。 ・図や式に表された事柄や解き方を説明する活動を多く取り入れるようにする。 ・知識と技能の習熟を図るだけでなく、身に付けたものを活用して解く問題にも取り組ませる。
図形	○県の正答率を上回っている。 ●「与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成する。」という設問の正答率が、県に比べ4ポイント以上低い。	・朝の学習などで四角形の特徴をとらえて作図することにより、理解を深める。 ・朝の学習などで作図について繰り返し復習し、定着を図る。
数量関係	○県の正答率を4.1ポイント上回った。 ○「折れ線グラフと表」では、県や市の正答率に比べ、全体的に5ポイント以上上回っている。 ●「基石の並べ方(順番)と基石の個数の関係を式で表す。」という設問の正答率が低い。	・図や式、言葉で表現するなどの算数的活動を繰り返し行うようにし、筋道を立てて考える力を高める。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	74.4	68.6	67.0
	生命・地球	77.3	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	67.5	61.2	58.8
	観察・実験の技能	53.4	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	83.0	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は74.4%であり、県平均よりも大きく上回っている。 ○「空気と水の性質」、「物と重さ」については、平均正答率が約90%であることから、今までの学習の成果として表れている。 ●「金属、水、空気と温度」や「電気の働き」は、県平均を上回っているものの、回答率としては低い。空気や金属の性質による温まり方の特徴や、つながり（直列と並列）による電流の強さの違いなどが、十分に理解できていないことがうかがえる。	・実験では、予想・実験・結果からの考察という経過を経て、数値と現象が結びつくようにする。 ・授業の中で学習内容を振り返る時間を確保するとともに、実態に応じてプリントの学習や家庭での学習へと学ぶ機会を広げ、基礎的事項の定着を図りながら理解力の向上へとつなげていく。 ・日常生活の事象と関連付けて予想を立てることを重視し、科学的な物の見方を高めていくようにする。
生命・地球	○領域の平均正答率は77.3%であり、県平均よりも大きく上回っている。 ○「人の体のつくりと運動」の平均正答率は約90%であることから、今までの学習により理解の定着が図れたことがうかがえる。 ●「方位磁針の使い方」「星座早見」の使い方などの観察・実験の技能に関する問題の正答率が低い。	・単に要点をノートに記述するだけでなく、観察や実験の結果をもとに児童自身に考えさせながらまとめることで、理解の定着へとつなげる。 ・学習内容によっては、多面的に追究できるように、映像や模型などで関連する資料を視聴的に提示する。 ・より観察や実験の技能の向上につなげるために、できるだけ少人数で実験や観察が行えるように配慮する。 ・「月と星」では、星座早見盤の操作の仕方をしっかり示すとともに、家庭でも観察する機会を設けることで理解の定着を図る。操作の習熟となるように保護者に対して協力を要請する。

宇都宮市立石井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学びの基礎力(教科学力や社会的実践力を身に付けていく上で基礎になる力)」につながるものとして、市や県の割合を上回っているものは、「家の人と将来のことについて話すことがある。」「家の人と学習について話をしている。」「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」「将来の夢や目標をもっている。」「難しい問題にであうとよりやる気が出る。」「先生は学習のことについてほめてくれる。」「自分の行動や発言に自信をもっている。」「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている。」が挙げられた。また、学力層の数値から見て「家の人と学校や学習のことについて話す。」に肯定的回答と学力は相関関係にあることが分かる。今後とも、学校と家庭が連携し児童の努力や成長を見守りたい。

●「学びの基礎力」で市や県の割合を下回っているものは、「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「家ででのきまりや約束を守っている。」「自分にはよいところがあると思う。」「時間を上手に使うことを心がけている。」が挙げられた。児童を認め励ます教育をさらに推進し、友達の良さを伝え合う活動などを実施して、自尊心の育成に努めていきたい。

○「社会的実践力(家族や学校・地域の集団の中で、周囲と良好な人間関係を結び、様々な問題を主体的に解決しながら自らの成長を図っていく能力)」に関する項目で、市や県の割合を上回っているものは、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている。」が挙げられた。自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業づくりを工夫している成果が表れている。

●「社会的実践力」で市や県の割合を下回っているものは、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。」「誰に対しても思いやりの心をもって接している。」が挙げられ、社会の出来事に関心をもつことや、良好な人間関係を形成すること、創造性や勇気を発揮してより良い方向に変えていこうとする力の育成が課題であるといえる。

○「学級力(学び合う集団の形成)」では、どの項目も8割以上の肯定的回答があり、良好であるといえる。特に「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよくしている。」の項目が市や県の割合を大きく上回った。

●「学級力」で市や県の割合をやや下回ったのは「学校のきまりを守っている。」であった。

○「家庭学習力」では、「家で自分で計画を立てて勉強している。」「家でテストで間違えた問題について勉強している。」「家で宿題のほかに自分で考えた学習をしている。」「家で勉強するときはだいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」の項目で市や県の割合を大きく上回った。

●「家庭学習力」で市や県の平均を下回ったのは「家で学校の授業の予習をしている。」であった。「復習をしている。」は上回ったが、この2項目で学力層の差が大きく表れることも分かった。今後も家庭との連携を図りながら児童が自主的に家庭学習に取り組めるように指導していきたい。

○「学習方略(学習の手立て)」では、理科の授業で学習したことを普段の生活で生かそうとしたり、自然や宇宙など科学の内容を扱っているテレビや本を読んだりすることの設問で、市や県の割合を上回った。また、「授業の内容はよく分かる。」の項目ではどの教科も、また、学力層に関係なく9割以上の児童が肯定的回答であった。

●「学習方略」で市や県の割合を下回ったのは、国語や算数に関する設問で、「国語の学習が好き」や「国語の問題を解く時間」について、「算数の問題を解くとき多様な考えで解いているか」についてであった。また、総合的な学習の時間についての肯定的回答も市や県の平均を下回った。

宇都宮市立石井小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示し、最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れ、「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識した指導をしている。	4・5年生ともに、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、県・市の平均と比べ上回っている。
基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指した朝の学習の充実	朝の活動を国語の漢字と算数の計算技能の定着のための時間として位置付け、指導をしている。	各教科の基礎では、4・5年生ともに、全教科で県平均の正答率を上回っている。
家庭学習の習慣化	「石井っ子の学習」を全家庭に配布し、家庭学習への意識を高められるようにしている。また、自主学習の進め方を指導し、宿題だけでなく、進んで家庭学習に取り組めるようにしている。	4・5年生ともに、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、県・市の平均と比べ上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述式設問における無回答率が県・市の平均より高いものがあつた。	自分の考えを書く活動の習慣化	字数や使用しなければならぬ語句の条件を段階的に増やすなど課題の提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていく。また、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせ、難しい問題に挑戦する意欲を高めるようにする。